



四街道市消防本部

50周年 記念誌

〈50th ANNIVERSARY〉



四街道消防のあゆみ

目次	・ 四街道市の紹介（プロローグ）	2
	・ 挨拶	4
	四街道市長／佐渡 斉	
	四街道市議会議長／成田 芳律	
	四街道市消防長／齊藤 信行	
	四街道市消防団長／河田 政実	
	・ 四街道市の位置と地勢	8
	・ 四街道市消防年表	11
	・ 過去の特異火災等の事例	26
	・ 歴代消防長・歴代消防団長	28
	・ 四街道市消防の組織	31
	四街道市消防の歌	
	組織と機構	
	消防庁舎	
	主な消防車両	
	予防業務	
	救急業務	
	特別救助隊	
	・ ちば消防共同指令センター	46
	・ 緊急消防援助隊	48
	・ 消防団	51



人 みどり 子育て 選ばれる安心快適都市 四街道



プロローグ



LOVE IN YOTSUKAIDO

愛があるから、四街道市。



50th

ごあいさつ

四街道市長

佐 渡 齊



このたび、四街道市消防本部が発足より、50年という大きな節目の年を迎えました。

これまで、四街道市の消防行政発展のためにご尽力を賜りました関係各位に心より感謝を申し上げます。

四街道市消防本部は、昭和46年に職員定数30名で発足し、本市が大規模な宅地開発などで首都圏の住宅都市として発展を遂げる中、急増する人口に対応し、施設や装備、組織の拡充を図りながら消防体制の基礎を築き、半世紀を経て現在の消防本部・消防署の体制へと発展してまいりました。

近年は、社会情勢や気候の変化により、火災や事故、自然災害の様相が複雑多様化し、市民生活の日常を脅かしております。

このような中、あらゆる災害から、市民の生命、身体及び財産を守るという消防が果たす責務は、極めて重要性が高く、市民の皆様から寄せられる期待もより一層大きくなっているものと思います。

昨今の台風や局地的な豪雨が多発している状況や、首都直下地震や千葉県東方沖地震等の大規模地震の発生が危惧されていることを踏まえ、今後は、地域の防災を担う消防団との連携をより一層図るとともに、阪神・淡路大震災や、東日本大震災から得た教訓を活かし、各種災害への対応能力の充実・強化を図らなければなりません。

本市といたしましても、更なる防災力の充実強化を図り、市民の皆様が安全で安心して暮らすことができるよう、災害に強いまちづくりを推進してまいります。

結びに、四街道市消防本部発足50周年を契機として、市民の皆様が、防災に対する理解を一層深めていただきますことを祈念申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。



市章

50th

発足 50 周年を祝して

四街道市議会議長

成 田 芳 律



このたび、四街道市消防本部発足 50 周年にあたり、記念誌が発刊されますことに、市議会を代表いたしまして心からお祝いを申し上げます。

また、昭和 46 年 4 月に四街道町消防本部・消防署が設置され、以来、市民の生命及び財産を火災や地震などの災害から守るため、日夜任務に精励いただきました消防職員、消防団員の皆様に対しまして、衷心より感謝を申し上げるとともに敬意を表するところでございます。

当市は、昭和 56 年 4 月に市制を施行し、本年 4 月に市制施行 40 周年を迎え、人口も 9 万 5 千余を数えるに至り、首都近郊の住宅都市として発展し続けておりますが、近年の災害の態様は、都市化の進展や生活様式の多様化に伴い、複雑・大規模化する傾向にあり、予測しがたい災害が増加しているのが現状であります。

このような中で、大規模地震等の自然災害の発生などにより、市民の備えに対する関心や消防に寄せる期待は大きな高まりを見せ、消防の果たす役割はますます重要なものとなっております。

市議会といたしましては、市全体の災害対応能力の充実強化を図るため、執行部と連携しながら、安全・安心で災害に強いまちづくりの実現に向けて全力を注いで参る所存でございます。

結びにあたり、四街道市消防本部のさらなるご発展と消防職員及び消防団員の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げまして、四街道市消防本部発足 50 周年記念誌発刊のお祝いのご挨拶とさせていただきます。



市の花「サクラソウ」

50th

発刊にあたり

四街道市消防長

齊 藤 信 行



このたび四街道市消防本部は発足 50 周年という輝かしい節目を迎えました。

四街道市の常備消防は、消防団常備部を経て昭和 46 年 4 月に四街道町消防本部として職員定数 30 名、実員 22 名で発足し、この半世紀の間に、消防関係者並びに住民の皆様のご理解とご協力によりまして、1 本部 1 消防署 2 分署、職員定数 112 名まで拡充されるとともに、消防施設と装備の充実が図られてまいりましたことに、衷心より御礼申し上げます。

また、歴代消防長や諸氏先達各位のこれまでのご苦勞に対し、改めて敬意と感謝を申し上げます。

近年の消防を取り巻く災害環境は、大規模地震や大型台風被害などの自然災害をはじめとして、複雑多様化、大規模化しており、予測を超える災害が多数発生しております。

また、令和 2 年には、新型コロナウイルス感染症が世界規模で感染拡大し、国として今なおその対応に追われている状況ではありますが、数年ごとに発生する新たな感染症への備えや、今後、30 年以内に震度 6 弱以上の激しい揺れに襲われる確率が、隣接の千葉市で 62% と発表されたことによる巨大地震への備え、更には高齢化社会を迎え救急需要が増大することへの対応などが重要課題となっております。

さらに、脱炭素社会の実現のために、消防施設への再生可能エネルギーの導入や、消防車両に電気自動車等を採用することが今後必要であると考えております。

四街道市の人口は、令和 3 年 4 月 1 日現在で 95,501 人となり、今なお増加を続けておりますことから、消防体制の更なる充実を図り、今後ともあらゆる災害から市民の生命、身体及び財産を守るため、四街道市消防団とともに全力で取り組んでまいります。

なお、このたびの記念誌につきましては、先輩諸兄が築き上げられてきた本市消防行政のあゆみと、管内で発生した災害の記録を記し、多くの皆様に更なる防火、防災の輪が広がりますことを願ひまして発刊いたしました。

最後に、これまで同様、皆様方の変わらぬご指導、ご協力をお願い申し上げます。発刊のご挨拶といたします。



50th

50周年を迎えて

四街道市消防団長

河田 政実



四街道市消防本部が発足50周年を迎えられて、常備消防の礎を築いてこられました先人の消防関係者の皆様に心より敬意と感謝を表しますとともに、50周年記念誌が発刊されますことに、心よりお祝いを申し上げます。

本市消防団については、昭和30年の町村合併により旧千代田町消防団、旧旭村消防団、市街地組合消防団を統合し四街道町消防団が設置され、65年の永きにわたり、歴史と伝統に育まれ発展してまいりました。

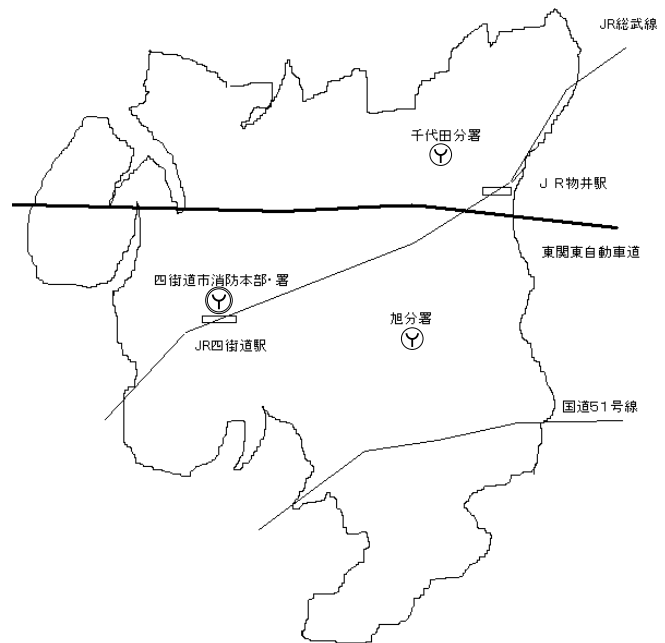
昭和42年消防団常備部の発足からは、常備・非常備消防がまさに車軸の両輪のごとく一致団結し、市民の安全な暮らしを守るため活動を続け、現在、当市消防団は男性団員216名、女性団員12名で地域に密着した消防団活動を行っております。

しかしながら、近年の社会情勢や自然環境も大きく変化し、全国各地で大規模地震、大型台風や局地的集中豪雨などの自然災害が発生し、災害は大規模化、複雑化の傾向にあるため、消防団員及び装備の効率的な運用など消防活動技術の向上に努めるとともに、より多様化した消防団活動を積極的に展開する必要があると考えております。

今後も、複雑多様化する災害から市民の安心と安全を守るため、「自らの地域は自ら守る」という意識をさらに高め、消防体制のより充実強化を進める覚悟でありますので、皆様方には、今後ともより一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます、お祝いの言葉といたします。



四街道市の位置と地勢



四街道市は千葉県の北部に位置し、県都千葉市へ8キロメートル、都心へ40キロメートルの圏内にあり、広域幹線道路の国道51号線、東関東自動車道が縦断し、千葉市、佐倉市に隣接しています。

市域は東西7キロメートル、南北9キロメートル、面積34.52平方キロメートルです。

昭和30年(1955年)3月、千代田町と旭村が合併し四街道町が誕生。当時の人口は18,014人(国勢調査)でした。昭和40年代前半から旭ヶ丘グリーンタウン、千代田団地、みそら団地などの大型団地が誕生し、首都圏のベッドタウンとして急速に人口が増加するとともに、自然と都市機能が調和したまちとして成長してきました。昭和56年(1981年)4月、市制が施行され新たな歩みを始めました。

四街道市市民憲章

私たちは、みどりと太陽に恵まれた四街道市民です。
おたがいに力をあわせてこの憲章を守り、住みよい豊かな
のびゆくまちをつくりましょう。

- 1 私たちは道徳を守り、
文化的なまちをつくりましょう。
- 1 私たちはスポーツを愛し、
すこやかなまちをつくりましょう。
- 1 私たちはみどりを愛し、
樹木や花の多い、きれいなまちをつくりましょう。
- 1 私たちは老人と子供をいたわり、
心豊かなまちをつくりましょう。
- 1 私たちは創意と工夫をもつて、
あかるいまちをつくりましょう。



市の木「サクラ」



市の花「サクラソウ」

市章の由来



「四」、「街」、「道」の三文字を円形に組み合わせたものであり、円形としたのは、市民の和を象徴したためです。

昭和30年3月10日に四街道町章として制定。その後、昭和56年4月1日の市制施行に伴い、市章といたしました。



消防本部

次の50年へ! 一致団結して地域を守る



消防署



消防署千代田分署



消防署旭分署

四街道市消防年表



四街道市消防年表

1955 (昭和30年)

- 5月 1日 • 旧千代田町消防団、旧旭村消防団及び旧市街地組合消防団（市街地地域の消防団）が統合し、四街道町消防団となる。
編成は、旧旭村消防団を第1支団、旧千代田町消防団を第2支団、旧市街地組合消防団を第3支団とする。本部位置は、旧市街地組合消防団本部とする。
- 5月 1日 • 団員定数を800名とする。
- 5月 1日 • 初代消防団長に根本貢氏が就任する。
- 11月 1日 • 第2代消防団長に入江元氏が就任する。



1957 (昭和32年)

- 5月 1日 • 第3代消防団長に神保一美氏が就任する。

1959 (昭和34年)

- 5月 1日 • 第4代消防団長に花島正氏が就任する。

1960 (昭和35年)

- 4月 1日 • 団員定数を446名とする。

1963 (昭和38年)

- 3月 31日 • 支団制を解き分団に統合、16分団制とする。
- 8月 5日 • 第5代消防団長に古川良一氏が就任する。

1964 (昭和39年)

- 1月 9日 • タンク車を購入・配置し「タンク車班」が発足する。
(10名編成)



1965 (昭和40年)

- 10月 • 消防団第4分団詰所が新築落成する。

1966 (昭和41年)

- 10月 • 消防団第10分団詰所が新築落成する。
- 12月30日 • 消防団第4分団にポンプ自動車を1台購入・配置する。

1967 (昭和42年)

- 3月10日 • (財)千葉県消防協会会長「千葉県消防協会表彰旗」受章
- 10月 1日 • 「消防団常備部」が発足する。(職員10名採用)
- 10月 1日 • 消防団常備部員(職員10名)を千葉市消防本部千葉消防署へ合宿実地研修に派遣する。
- 10月 • 消防団第9分団詰所が新築落成する。
- 12月27日 • 消防団常備部が消防業務を開始する。
- 12月30日 • 消防団常備部にポンプ自動車を1台購入・配置する。



1968 (昭和43年)

- 1月10日 • 消防団常備部長に副団長山崎清氏が就任する。
- 1月10日 • 消防団常備部に指令室を増築する。(9.72㎡)
- 3月13日 • 千葉県知事「優良表彰旗」受章
- 10月 • 消防団第8分団詰所が新築落成する。

1969 (昭和44年)

- 4月 1日 • 各分団員定数を20名(13分団は、定数15名)とし、「タンク車班」を「常備協力班」と改名し、定数10名とする。
- 10月 • 消防団第16分団詰所が新築落成する。
- 11月 1日 • 大日大作岡地区に第17分団を設置し(17分団制)定数15名を以って発足する。
- 11月20日 • 消防団常備部に超短波無線局を開設する。(周波数152.81MHz、出力5W、基地局1、移動局2)
- 12月 1日 • 消防団第2分団にポンプ自動車1台を購入・配置する。
- 12月22日 • 「四街道町草刈条例」を制定する。

1970 (昭和45年)

- 1月15日 • 消防団常備部に待機室を増築する。(11.57㎡)
- 5月11日 • 消防団常備部に救急車用車庫を増築する。(29.20㎡)
- 7月 9日 • 消防団常備部が、大多喜町に災害復旧作業に応援出動する。(部長以下5名)
- 7月13日 • 消防団第17分団に可搬動力ポンプ1台を配置する。
- 7月25日 • 消防団常備部に風向風速計を購入・配置する。
- 12月 1日 • 消防団第5分団詰所が新築落成する。
- 12月 3日 • 消防団常備部に携帯無線機2基を購入・配置する。
- 12月10日 • 消防団第3分団にポンプ自動車1台を購入・配置する。
- 12月29日 • 救急車において無線運用を始める。
- 12月30日 • 生命保険協会から救急車の寄贈を受け、消防団常備部に配置する。
消防団常備部が独自の救急業務を開始する。

1971 (昭和46年)

- 3月12日 ・ 千葉県知事「優秀表彰旗」受章
- 4月1日 ・ 消防団常備部を改組し、消防本部及び消防署を設置する。
- 4月1日 ・ 職員定数を30名(実員22名)とする。
- 4月1日 ・ 初代消防長に清宮兵之助氏が就任する。(町長による消防長事務取扱い)
- 9月1日 ・ 第2代消防長に古川良一氏が就任する。
- 9月1日 ・ 第6代消防団長に長谷川功氏が就任する。
- 9月27日 ・ 消防署に消防ポンプ自動車及び化学消防ポンプ自動車1台を購入・配置する。
- 10月25日 ・ 日本道路公団から救急車の寄贈を受け、消防署に配置する。
- 11月15日 ・ 新消防庁舎の建設工事に着手する。
- 12月25日 ・ 消防団第3分団詰所が新築落成する。

1972 (昭和47年)

- 2月18日 ・ 消防団が(財)日本消防協会会長「団旗竿頭綬」受章
- 4月1日 ・ 職員定数を40名(実員29名)とする。
- 4月26日 ・ 消防本部・消防署の合同庁舎が新築落成する。
(位置：四街道町鹿渡熊ヶ谷台934番地26)



- 4月26日 ・ テレビ監視装置を設置する。
- 4月28日 ・ 麻生工業(株)から指揮車の寄贈を受け、消防本部に配置する。
- 8月15日 ・ 救急業務実施市町村の政令指定を受け、救急業務を開始する。
- 8月23日 ・ 平和産業(株)から連絡車の寄贈を受け、消防本部に配置する。
- 9月5日 ・ 消防本部の指導により「四街道町危険物安全協会」が発足する。

1973 (昭和48年)

- 3月27日 ・ 消防団第2分団詰所が新築落成する。
- 4月1日 ・ 消防団本部分団(旧「常備協力班」)を改名し、第18分団として発足する。(18分団制)
- 4月1日 ・ 団員定数を354名とする。
- 8月19日 ・ 第1回消防団操法大会を開催する。
(優勝：ポンプ自動車の部・第2分団、小型ポンプの部・第15分団)
- 12月20日 ・ 消防団第1分団・第11分団詰所が新築落成する。
- 12月27日 ・ 消防署にはしご付き消防ポンプ自動車(18m級)1台を購入・配置する。



1974 (昭和49年)

- 8月 9日 ・ 消防署に自家用給油取扱所を設置する。
- 10月 1日 ・ 地震対策用40㎡級防火水槽の設置事業に着手する。
- 10月15日 ・ 消防団第15分団詰所が新築落成する。



昭和49年5月1日

1975 (昭和50年)

- 9月 1日 ・ 第7代消防団長に勝山衛氏が就任する。
- 10月 1日 ・ 消防団第17分団詰所が新築落成する。



昭和50年4月1日

1976 (昭和51年)

- 1月16日 ・ 千葉県共済農業協同組合連合会から救急車(2B型)の寄贈を受け、消防署に配置する。
- 7月31日 ・ 消防団全分団に無線受信機の設置を完了する。
- 10月20日 ・ 消防団第6分団詰所が新築落成する。

1977 (昭和52年)

- 3月 3日 ・ 消防団が(財)日本消防協会会長「表彰旗」受章
- 9月 1日 ・ 第1回四街道町総合防災訓練(於県立四街道高等学校)に参加する。
- 10月 7日 ・ 消防団全分団への小型動力ポンプ専用積載車の整備を開始する。
- 10月15日 ・ 消防団第12分団詰所が新築落成する。
- 11月29日 ・ 消防団第7分団詰所が新築落成する。
- 12月 1日 ・ 消防本部機構を庶務課及び消防課の2課体制に、消防署機構を1署1分署体制にそれぞれ強化する。
- 12月 1日 ・ 職員定数を75名(実員66名)とする。
- 12月 1日 ・ 千代田分署に職員21名、水槽付き消防ポンプ自動車1台、救急車(2B型)1台及び連絡車1台を配置し、業務を開始する。
- 12月10日 ・ 消防団第14分団詰所が新築落成する。
- 12月28日 ・ 四街道ライオンズクラブから赤バイ1台の寄贈を受け、消防署に配置する。



1978 (昭和53年)

- 2月10日 ・ 日本自動車工業会から救急車(2B型)1台の寄贈を受け、消防署に配置する。
- 9月 3日 ・ 消防団第13分団詰所が新築落成する。
- 10月 9日 ・ 消防署千代田分署に自家用給油取扱所を設置する。
- 12月 8日 ・ 消防団第18分団詰所が新築落成する。

1979 (昭和54年)

- 3月30日 • 消防本部に消防救急一斉指令装置及び総合自動気象観測装置を設置する。



1980 (昭和55年)

- 3月5日 • 消防庁長官「竿頭綬」受章
- 7月1日 • 消防本部の指導により、「四街道町防火指導員」が44名で発足する。
- 7月1日 • 消防本部機構を3課1室9係体制に改正強化する。
庶務課（庶務係、企画広報係、経理係）・予防課（指導係、調査係、危険物係）・警防課（警防係、機械係）・指令室（指令係）
- 9月30日 • 消防団全分団への小型動力ポンプ専用積載車の整備を完了する。
- 9月30日 • 新東京国際空港公団から化学消防ポンプ自動車1台の寄贈を受け、消防署に配置する。
- 10月1日 • 職員定数を90名（実員69名）とする。



1981 (昭和56年)

- 4月1日 • 市制施行に伴い、「四街道町消防本部」を「四街道市消防本部」に、「四街道町消防団」を「四街道市消防団」にそれぞれ名称変更する。
- 9月25日 • 日本消防協会から救急車（2B型）1台の寄贈を受け、消防署に配置する。
- 11月30日 • 消防署旭分署に自家用給油取扱所を設置する。
- 12月2日 • 消防署機構を1署2分署体制に改正強化する。
- 12月2日 • 職員定数を92名（実員92名）とする。
- 12月2日 • 旭分署に職員21名、水槽付き消防ポンプ自動車1台、救急車（2B型）1台及び連絡車1台を配置し、業務を開始する。



1982 (昭和57年)

8月 3日 ・ 消防署に小型動力ポンプ付き水槽車 (10m³) 1台を購入し、配置する。

1983 (昭和58年)

5月 2日 ・ 四街道ロータリークラブから原付バイク2台の寄贈を受け、千代田分署及び旭分署に配置する。

1984 (昭和59年)

12月 21日 ・ 職員定数を95名 (実員91名) とする。

1985 (昭和60年)

- 2月 28日 ・ 消防署にはしご付き消防ポンプ自動車 (30 m級) 1台を購入し、配置する。
- 5月 22日 ・ 第7回千葉県消防音楽隊フェスティバルが当市文化センターで開催される。
- 9月 1日 ・ 第1回四街道市総合防災訓練 (於四街道小学校) に参加する。



9月 2日 ・ 「四街道市消防音楽隊」が隊員数23名 (兼務) で発足する。



10月 1日 ・ 消防本部機構を4課11係体制に改正強化する。総務課 (庶務係、企画広報係、経理係) 予防課 (指導係、調査係、危険物係) 警防課 (指導係、警防係、機械係) 指令課 (通信管理係、情報係)

12月 2日 ・ 消防署に電源照明付き救助工作車 (Ⅱ型) 1台及び救急車 (2B型) 1台を購入し、配置する。



1986 (昭和61年)

- 4月 1日 • 第3代消防長に鈴木均氏が就任する。
- 5月 1日 • 「四街道市消防の歌」を制定する。
- 9月 1日 • 第7回六都県市合同防災訓練が、千葉県メイン会場として県立四街道高等学校で実施される。
- 9月 9日 • 消防署の自家用給油取扱所を改修設置する。
- 10月 28日 • 四街道市婦人消防隊（セイコー光機）が第2回全国婦人消防操法大会に出場する。

1987 (昭和62年)

- 1月 12日 • 消防本部予防課に原因調査車1台を購入し、配置する。
- 8月 13日 • 日本消防協会から救急車（2B型）1台の寄贈を受け、千代田分署に配置する。
- 11月 4日 • 千代田分署に水槽付き消防ポンプ自動車1台を購入し、更新配置する。

1988 (昭和63年)

- 3月 23日 • 消防本部・消防署合同庁舎に自家発電設備（30KVA）を設置する。
- 4月 1日 • 職員定数を100名（実員99名）とする。
- 4月 1日 • 第8代消防団長に岡本唯三氏が就任する。

1989 (平成元年)

- 1月 24日 • 千代田分署に自家発電設備（20KVA）を設置する。
- 9月 18日 • 旭分署に救急車（2B型）1台を購入し、更新配置する。
- 12月 5日 • 旭分署に自家発電設備（20KVA）を設置する。
- 12月 12日 • 消防署に水槽付き消防ポンプ自動車1台を購入し、更新配置する。

1991 (平成3年)

- 2月 5日 • 消防団全分団に車載型無線受令機の整備を完了する。
- 4月 1日 • 職員定数を106名（実員102名）とする。
- 10月 12日 • 消防署に救急車（2B型）1台を購入し、更新配置する。
- 12月 16日 • 消防本部・消防署合同庁舎に変電設備（80KVA）を設置する。

1992 (平成4年)

- 3月 6日 • 消防署に化学消防ポンプ自動車（Ⅱ型）1台を購入し、更新配置する。
- 7月 16日 • 鷹の台3丁目15番2号に消防用地（1,500.06㎡）を確保する。

1993 (平成5年)

- 1月18日 • 旭分署に水槽付き消防ポンプ自動車1台を購入し、更新配置する。
- 4月 1日 • 職員定数を112名(実員109名)とする。
- 4月 1日 • 「四街道市特別救助隊」が隊員数16名(兼務)で発足する。
- 11月24日 • 旭分署に消防ポンプ自動車(CD-I型)1台を購入し、更新配置する。

1994 (平成6年)

- 1月10日 • 旭分署に屈折はしご車(15m級)1台を購入し、更新配置する。
- 4月 1日 • 第4代消防長に齋藤孝一氏が就任する。
- 4月 1日 • 第9代消防団長に深澤健作氏が就任する。
- 4月 1日 • 「四街道市消防資料館」を開設する。
- 11月 2日 • 当市初の「救急救命士」が誕生する。



1995 (平成7年)

- 4月 1日 • 消防署に初の高規格救急自動車1台を購入し、更新配置する。
- 4月 1日 • 救急救命士による救急業務を開始する。



1996(平成8年)

- 4月 1日 • 第5代消防長に伊藤晃氏が就任する。
- 4月 1日 • 消防本部機構を4課12係制に、消防署(分署を除く)の機構を8係制にそれぞれ改正し、救急体制を強化する。(消防本部警防課警防係から救急関係事務を分離独立させて救急係を、消防署警防第1・2係から救急関係事務を分離独立させて救急第1・2係をそれぞれ設置する。)
総務課(庶務係、企画広報係、経理係)
予防課(指導係、調査係、危険物係)
警防課(指導係、警防係、救急係、機械係)
指令課(指令第1係、指令第2係)
消防署
(庶務第1係、予防第1係、警防第1係、救急第1係)
(庶務第2係、予防第2係、警防第2係、救急第2係)
- 10月 1日 • 消防組織法改正により、「四街道市消防職員委員会」を設置する。
- 11月28日 • 千代田分署及び旭分署に現場指揮車各1台を購入し、配置する。
- 12月 4日 • 消防署に運搬車1台を購入し、更新配置する。
- 12月16日 • 消防本部警防課に人員輸送車1台を購入・配置(旭分署)する。
- 12月24日 • 和良比635番1に消防用地(4,622.74㎡)を確保する。

1997(平成9年)

- 1月21日 • 消防本部警防課に現場指揮統制車1台を購入・配置する。
- 3月14日 • 消防本部予防課に原因調査車1台を購入し、更新配置する。
- 7月25日 • 日本消防協会から小型動力ポンプ付き積載車1台の寄贈を受け、消防団第13分団に更新配置する。
- 9月29日 • 消防本部総務課及び警防課に指令広報車各1台を購入し、更新配置する。
- 10月13日 • 四街道ライオンズクラブから液晶ビデオ映写機一式の寄贈を受け、消防本部総務課に配置する。

1998(平成10年)

- 2月18日 • 第39回千葉県消防職員意見発表会が当市文化センターで開催される。

1999(平成11年)

- 2月17日 • 千代田分署に高規格救急自動車1台を購入し、更新配置する。
- 3月26日 • 日本消防協会から救急車(2B型)1台の寄贈を受け、旭分署に更新配置する。
- 4月 1日 • 消防本部指令課に消防緊急通信指令施設を更新設置する。
- 4月 1日 • 消防本部警防課の機構を改正し、救助体制及び消防団事務執行体制を強化する。(指導係を廃止し救急係を救急救助係に改め、消防団係を新設する。)
警防課(警防係、救急救助係、機械係、消防団係)

2000 (平成12年)

- 2月16日 • 千代田分署に水槽付き消防ポンプ自動車1台を購入し、更新配置する。
- 3月8日 • 消防庁長官「表彰旗」受章
- 4月1日 • 第6代消防長に大野宇一氏が就任する。
- 4月1日 • 第10代消防団長に大川武博氏が就任する。
- 9月17日 • 第22回千葉県消防音楽隊フェスティバルが当市文化センターで開催される。



2001 (平成13年)

- 2月16日 • 和良比消防用地の隣接地 (869.78㎡) を購入及び公有財産 (246.74㎡) を引継ぎ消防用地を拡張する。(総面積5,739.26㎡)
- 3月12日 • 消防署に救助工作車 (Ⅱ型) 1台を購入し、更新配置する。
- 4月1日 • 第11代消防団長に眞道信雄氏が就任する。

2002 (平成14年)

- 3月8日 • 消防署に水槽付き消防ポンプ自動車1台を購入し、更新配置する。
- 3月19日 • (社)日本損害保険協会から高規格救急自動車1台の寄贈を受け、旭分署に更新配置する。

2003 (平成15年)

- 3月26日 • 千代田分署に小型動力ポンプ付水槽車 (5㎡) 1台を購入し、更新配置する。
- 4月1日 • 第7代消防長に中臺茂樹氏が就任する。
- 4月1日 • 消防本部総務課の機構を改正し (庶務係を総務係に改め)、消防署 (分署を含む) の機構を係制から班制に改正強化する。
総務課 (総務係、企画広報係、経理係)
消防署
(総務第1班、予防第1班、警防第1班、救急第1班)
(総務第2班、予防第2班、警防第2班、救急第2班)
千代田分署及び旭分署
(総務第1班、予防第1班、警防第1班)
(総務第2班、予防第2班、警防第2班)

2004 (平成16年)

- 2月26日 • 消防署に高規格救急自動車1台を購入し、更新配置する。
- 3月26日 • 消防署に化学消防ポンプ自動車 (Ⅱ型) 1台を購入し、更新配置する。



2005(平成17年)

- 1月21日 ・ 消防署にはしご付消防自動車(30m級)1台を購入し、更新配置する。
- 4月 1日 ・ 第8代消防長に小林昭五氏が就任する。
- 4月 1日 ・ 緊急消防援助隊に消火部隊(1隊)を登録する。
- 4月 1日 ・ 当市初の女性消防団員(4名)を任命する。
- 10月20日 ・ 航空機事故消火救難総合訓練(第24回:成田市)に初参加する。
- 11月10日 ・ 携帯電話からの119番通報直接受信を開始する。

2006(平成18年)

- 2月 9日 ・ 日本消防協会から司令車1台の寄贈を受け、配置(消防団本部)する。
- 3月27日 ・ 消防本部警防課に後方支援車1台を購入し、配置(旭分署)する。
- 3月30日 ・ 旭分署に災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車(水I-B型)1台を購入し、更新配置する。
- 4月 1日 ・ 緊急消防援助隊に後方支援隊(1隊)を登録する。
- 9月 3日 ・ 第27回八都県市合同防災訓練が、千葉県メイン会場として県立四街道高等学校で実施される。
- 11月 6日 ・ 旭分署に消防ポンプ自動車(CD-I型)1台を購入し、更新配置する。
- 12月22日 ・ 消防本部警防課に指揮支援車1台を購入し、更新配置する。

2007(平成19年)

- 2月3・4日 ・ 千葉県消防広域応援隊合同訓練(第1回:千葉県消防学校)に参加する。
- 2月28日 ・ 消防本部予防課に原因調査車1台を購入し、更新配置する。
- 4月 1日 ・ 市の組織・機構の再編に伴い、消防本部指令課を消防署に統合して消防本部機構を3課とし、消防本部についてはグループ制を採る。
総務課(総務グループ、企画管理グループ)
予防課(予防グループ、調査グループ)
警防課(警防グループ、救急救助グループ)
消防署
(指令第1班、総務第1班、予防第1班、警防第1班、救急第1班)
(指令第2班、総務第2班、予防第2班、警防第2班、救急第2班)
千代田分署及び旭分署
(総務第1班、予防第1班、警防第1班)
(総務第2班、予防第2班、警防第2班)
- 10月19日 ・ 消防本部警防課に指令広報車1台を購入し、更新配置する。
- 10月20・21日 ・ 緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練(群馬県前橋市)に初参加する。
- 11月 5日 ・ 東関東自動車道及び新空港自動車道消防協議会合同訓練
(第1回:市原市)に参加する。

2008(平成20年)

- 6月29日 ・ 四街道市消防団(第2分団)が第28回印旛支部消防操法大会ポンプ車の部にて優勝する。
- 7月26日 ・ 四街道市消防団(第2分団)が第44回千葉県消防操法大会に出場する。
- 9月 9日 ・ 四街道市消防本部が「千葉県救急医療功労者表彰」を受章

2009 (平成21年)

- 3月27日 • 旭分署に屈折はしご付消防ポンプ自動車(20m級)1台を購入し、更新配置する。
- 4月1日 • 第9代消防長に川村雅敏氏が就任する。
- 5月1日 • 第12代消防団長に塚本正英氏が就任する。
- 12月28日 • 千代田分署に高規格救急自動車1台を購入し、更新配置する。

2010 (平成22年)

- 2月13日 • 消防団第11分団詰所を鹿渡698番36へ移転する。
- 3月9日 • 消防署に消防緊急通信指令施設を更新設置する。

2011 (平成23年)

- 2月10日 • 旭分署に高規格救急自動車1台を購入し、更新配置する。
- 3月20~22日 • 東北地方太平洋沖地震に伴う緊急消防援助隊千葉県隊として、消火隊・後方支援隊として出動する。(岩手県陸前高田市)
- 4月1日 • 第10代消防長に能城俊一氏が就任する。



2012 (平成24年)

- 2月20日 • 消防本部総務課に指令車1台を購入し、更新配置する。
- 3月30日 • 千代田分署に災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車(水I-B型)1台を購入し、更新配置する。
- 3月31日 • 「四街道市消防資料館」を閉館する。
- 4月1日 • 消防署に指揮隊を発足させる。
- 4月1日 • 消防本部予防課(調査グループを査察指導グループに改め)及び消防署(班制からグループ制に改め)の機構を改正強化する。
予防課(予防グループ、査察指導グループ)
消防署
(指揮指令1グループ、総務1グループ、予防1グループ、警防1グループ、救急1グループ)
(指揮指令2グループ、総務2グループ、予防2グループ、警防2グループ、救急2グループ)
千代田分署及び旭分署
(総務1グループ、予防1グループ、警防1グループ)
(総務2グループ、予防2グループ、警防2グループ)

2013(平成25年)

- 3月28日 ・ 消防署に高規格救急自動車1台を購入し、更新配置する。
- 3月31日 ・ 四街道市消防音楽隊を廃止する。
- 4月 1日 ・ 県内北東部、南部の20消防本部の指令業務を共同化し千葉市消防局7階に「ちば消防共同指令センター」を設置し、消防救急無線をデジタル波に切替え、運用を開始する。
- 12月21日 ・ 消防団第15分団詰所を亀崎245番1へ移転する。

2014(平成26年)

- 1月15日 ・ 消防本部総務課に広報車1台を購入し、更新配置する。
- 1月23日 ・ 千代田分署に広報車1台を購入し、更新配置する。

2015(平成27年)

- 3月25日 ・ 消防署に災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車(水I-B型)1台を購入し、更新配置する。
- 4月 1日 ・ 第11代消防長に橋本政美氏が就任する。
- 4月 1日 ・ 団員定数を300名とする。

2016(平成28年)

- 3月18日 ・ 千代田分署に高規格救急自動車1台を購入し、更新配置する。
- 4月 1日 ・ 第12代消防長に飯田和進氏が就任する。
- 10月19日 ・ 旭分署に広報車1台を購入し、更新配置する。

2017(平成29年)

- 4月 1日 ・ 第13代消防長に林田茂樹氏が就任する。
- 8月23日 ・ 全国消防救助技術大会において、2種目入賞する。
- 11月18日 ・ 総務省消防庁から多機能車1台の貸与を受け、消防団本部に配置する。



2018 (平成30年)

- 3月31日 • 消防団第13分団を廃止する。
- 4月 1日 • 第14代消防長に西岡 亨氏が就任する。
- 4月 1日 • 市の組織機構改革に伴い、消防本部・署について、グループ制を廃し係制を採る。
消防署警防1、2グループから救助関係事務を分離独立させて、救助1、2係を新たに設置し、組織体制の強化を図る。
総務課（総務係、企画管理係）
予防課（予防係、査察指導係）
警防課（警防係、救急救助係）
消防署
（指揮指令1係、総務1係、予防1係、警防1係、救助1係、救急1係）
（指揮指令2係、総務2係、予防2係、警防2係、救助2係、救急2係）
消防署千代田分署及び旭分署
（総務1係、予防1係、警防1係）
（総務2係、予防2係、警防2係）
- 7月 1日 • 四街道市消防団（第2分団）が第38回印旛支部消防操法大会ポンプ車の部にて優勝する。
- 8月 4日 • 四街道市消防団（第2分団）が第54回千葉県消防操法大会に出場し、ポンプ車の部にて優良賞（第3位）を獲得する。

2020 (令和2年)

- 4月 1日 • 第15代消防長に齊藤信行氏が就任する。
- 7月19日 • 消防団第2分団詰所を四街道3丁目8番1号へ移転する。

2021 (令和3年)

- 3月31日 • 消防団第11分団を廃止する。
- 4月 1日 • 第13代消防団長に河田政実氏が就任する。
- 10月11日 • 旭分署に高規格救急自動車1台を購入し、更新配置する。



過去の特異火災等の事例

昭和

- 26年 5月25日 鹿渡地区 建物火災 全焼3棟 出動団員370名
焼失面積 約417㎡ 損害額1,000,000円 **(深夜の住宅火災)**
- 26年 6月16日 鹿渡地区 建物火災 全焼3棟 出動団員480名
焼失面積 約318㎡ 損害額6,000,000円 **(深夜の倉庫火災)**
- 40年 6月16日 鹿渡地区 建物火災 全焼1棟、半焼2棟
焼失面積 約3,762㎡ **(深夜の共同住宅延焼火災)**
- 44年 3月12日 四街道地区 建物火災 全焼2棟 焼失面積 約395㎡
損害額9,500,000円 **(強風時の住宅延焼火災)**
- 47年 5月7日 物井地区 建物火災 全焼3棟、部分焼1棟 焼失面積 約151㎡
損害額880,000円 **(作業場から住宅へ延焼火災)**
- 47年 5月22日 鹿放ヶ丘地区 建物火災 全焼1棟
焼失面積 約94㎡ **(落雷により発生した火災)**
- 48年 12月10日 小名木地区 建物火災 全焼3棟 焼失面積 約876㎡
損害額12,704,000円 **(化学工場火災)**
- 58年 6月7日 山梨地区 建物火災 全焼1棟、半焼1棟 死者2名、負傷者1名
損害額2,758,000円 **(時限発火装置による火災)**
- 59年 3月7日 和田地区及び栗山地区 建物火災
和田地区 全焼1棟 焼失面積 約219㎡ 損害額16,547,000円
栗山地区 全焼1棟 焼失面積 約72㎡ 損害額11,361,000円 死者1名
(同時多発火災)
- 59年 8月5日 大日地区 建物火災 全焼3棟、半焼5棟、部分焼2棟
焼失面積 約502㎡ **(LPガスによる爆発火災)**
- 61年 7月10日 東関東自動車道 車両火災 車両2台全焼 死者4名、負傷者2名
損害額1,568,000円 **(移動タンク貯蔵所の炎上)**
- 63年 2月16日 四街道地区 建物火災 全焼2棟、部分焼2棟 死者3名、負傷者2名
焼失面積 約302㎡ **(深夜の共同住宅火災)**

平成

- 10年 4月11日 和良比地区 建物火災 全焼3棟、部分焼4棟 焼失面積 約316㎡
損害額 32,369,000円 **(住宅密集地での住宅延焼火災)**
- 10年 11月15日 大日地区 建物火災 全焼2棟、半焼2棟、部分焼4棟
焼失面積 約255㎡ 損害額 42,569,000円 **(住宅密集地での住宅延焼火災)**
- 13年 5月 5日 山梨地区 建物火災 全焼1棟、部分焼5棟 死者11名
焼失面積 約1,000㎡ 損害額 16,325,000円 **(深夜の作業員寄宿舍火災)**
- 14年 8月24日 鹿放ヶ丘地区 その他の火災 出動隊員(消防職員67名、消防団員90名)
損害額 8,386,000円 **(古タイヤ約5,000本が焼失)**
- 16年 3月17日 大日今宿地区 その他の火災 出動隊員(消防職員41名、消防団員38名)
産業廃棄物(木材等) 2,000㎡焼失 **(強風下の大規模産業廃棄物火災)**
- 20年 2月14日 大日萱橋台地区 建物火災 出動隊員(消防職員34名、消防団員32名)
焼損面積 865㎡ 損害額 262,449,000円 **(深夜の大規模工場火災)**
- 23年 3月11日 東日本大震災 ～東北地方太平洋沖地震～
発生時刻 14時46分 最大震度 7(宮城県栗原市) **(四街道市の震度5弱)**
- 26年 8月11日 吉岡地区 建物火災 出動隊員(消防職員42名、消防団員46名)
焼損面積 109.09㎡ 損害額 1,286,000円 **(古民家住宅火災)**
- 30年 1月 2日 大日地区 その他の火災 出動隊員(消防職員54名、消防団員47名)
廃材等 2,477㎡焼損 損害額 3,385,000円 **(鎮火に長時間を要した産業廃棄物火災)**
- 30年 12月31日 小名木地区 建物火災 全焼1棟、部分焼1棟 死者3名、負傷者3名
焼損面積 101.43㎡ 損害額 25,865,000円 **(年末における住宅火災)**

令和

- 元年 9月 9日 台風15号(令和元年房総半島台風)
出動隊員(消防職員延べ180名、消防団員延べ65名)
市内出動件数 55件 **(千葉県内に大きな被害をもたらした台風)**
- 元年 10月12日 台風19号(令和元年東日本台風)
出動隊員(消防職員延べ36名、消防団員延べ337名)
市内出動件数 70件(広報等を含む。)
(四街道市において、消防職・団員に全員召集を行った初めての災害)

歴代消防長

初代消防長



清宮 兵之助

昭和46年4月1日～
昭和46年8月31日

第2代消防長



古川 良一

昭和46年9月1日～
昭和61年3月31日

第3代消防長



鈴木 均

昭和61年4月1日～
平成6年3月31日

第6代消防長



大野 宇一

平成12年4月1日～
平成15年3月31日

第7代消防長



中臺 茂樹

平成15年4月1日～
平成17年3月31日

第8代消防長



小林 昭五

平成17年4月1日～
平成21年3月31日

第11代消防長



橋本 政美

平成27年4月1日～
平成28年3月31日

第12代消防長



飯田 和進

平成28年4月1日～
平成29年3月31日

第13代消防長



林田 茂樹

平成29年4月1日～
平成30年3月31日

歴代消防団長

第4代消防長



齋藤 孝一

平成6年4月1日～
平成8年3月31日

第5代消防長



伊藤 晃

平成8年4月1日～
平成12年3月31日

第9代消防長



川村 雅敏

平成21年4月1日～
平成23年3月31日

第10代消防長



能城 俊一

平成23年4月1日～
平成27年3月31日

第14代消防長



西岡 亨

平成30年4月1日～
令和2年3月31日

第15代消防長



齊藤 信行

令和2年4月1日～
現在に至る

初代 根本 貢

昭和30年5月1日～昭和30年10月31日

第2代 入江 元

昭和30年11月1日～昭和32年4月30日

第3代 神保 一美

昭和32年5月1日～昭和34年4月30日

第4代 花島 正

昭和34年5月1日～昭和38年8月4日

第5代 古川 良一

昭和38年8月5日～昭和46年8月31日

第6代 長谷川 功

昭和46年9月1日～昭和50年8月31日

第7代 勝山 衛

昭和50年9月1日～昭和63年3月31日

第8代 岡本 唯三

昭和63年4月1日～平成6年3月31日

第9代 深澤 健作

平成6年4月1日～平成12年3月31日

第10代 大川 武博

平成12年4月1日～平成12年10月19日

第11代 眞道 信雄

平成13年4月1日～平成21年4月30日

第12代 塚本 正英

平成21年5月1日～令和3年3月31日

第13代 河田 政実

令和3年4月1日～現在に至る



四街道市消防本部

四街道市消防の組織

【四街道消防訓】

- 一 心身鍛錬
- 一 冷静迅速 果敢
- 一 規律 厳正
- 一 和合 共同
- 一 市民に愛され 信頼される職員となれ



四街道市消防の歌

あさ かげ きよき

しもしず に じんそくかかんを むねとして ひとたびまちに

さいがいの あればこのみを ていすなりここ に一つどい

て—し き—た か き—われら—しょうぼう—ひ か—りあ

れ—

四街道市消防の歌

作詞 大塚 久雄
作曲 成島 弘

一、朝光清き下志津に

迅速果敢を旨として
ひとたび街に災害の
あればこの身を挺すなり
ここに集いて士気たかき
われら消防光あれ

二、松風わたる北総の

大地に心と身を鍛え
夜昼こえて住む人の
やすけき暮し願うなり
ここに集いて灯を守る
われら消防光あれ

三、あおく輝く街空に

建設の音ひびきいる
四街道の安全を
担う使命の尊かり
ここに集いてたくましき
われら消防光あれ



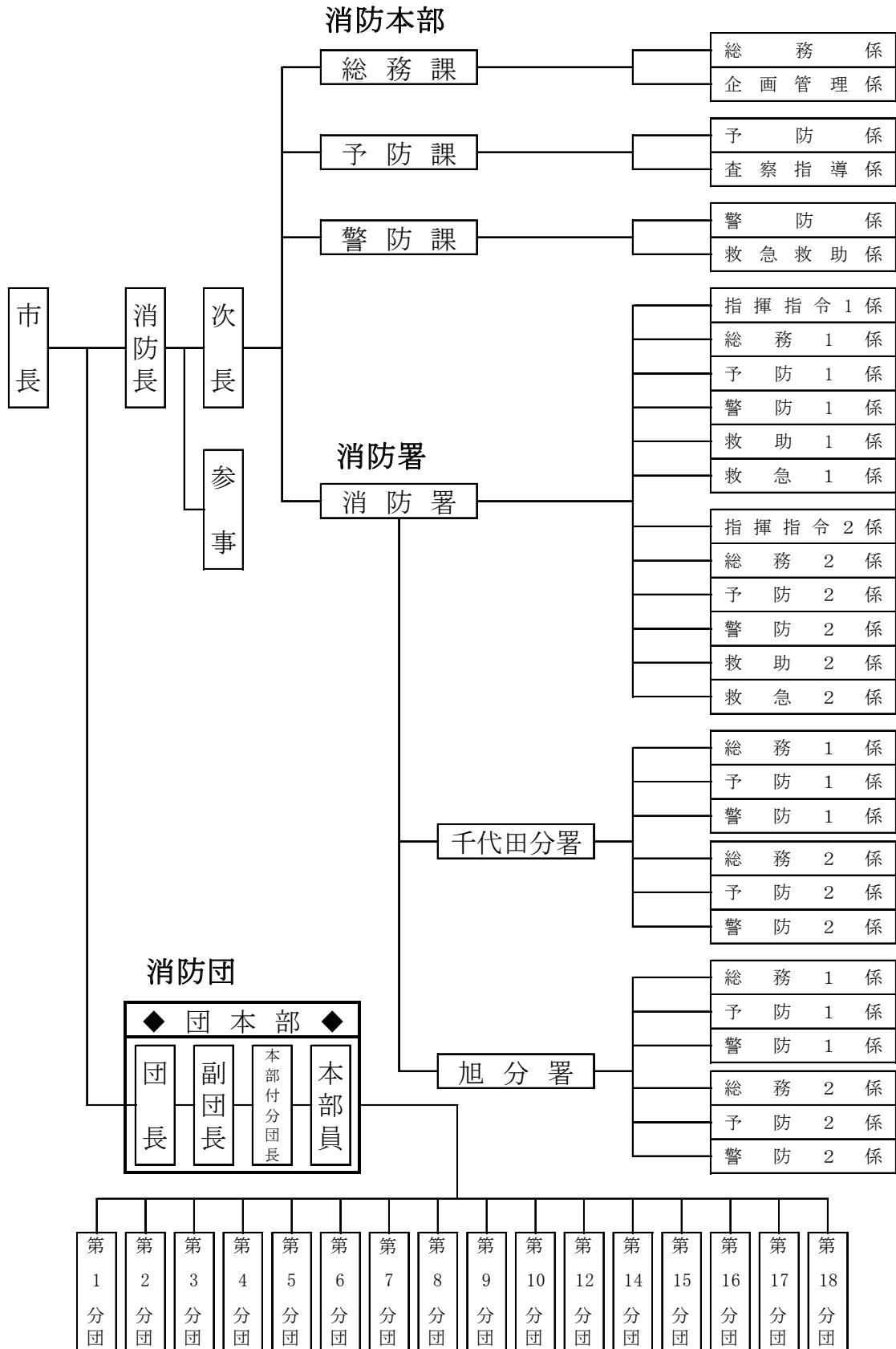
絵：福田芳生



四街道の地名発祥の地（四街道十字路）

組織と機構

(令和3年4月1日現在)



※ 第13分団(平成30年3月31日)及び第11分団(令和3年3月31日)廃止

消防庁舎

消防本部・消防署



〔竣 工〕 昭和47年4月
〔所 在 地〕 四街道市鹿渡934-26
〔構 造〕 鉄筋コンクリート造3階建
〔延べ面積〕 873.17㎡

千代田分署



〔竣 工〕 昭和52年7月
〔所 在 地〕 四街道市千代田5-33
〔構 造〕 鉄筋コンクリート造2階建
〔延べ面積〕 487.76㎡

旭分署



〔竣 工〕 昭和56年11月
〔所 在 地〕 四街道市みそら1-25
〔構 造〕 鉄筋コンクリート造2階建
〔延べ面積〕 516.29㎡

主な消防車両等

従前車両



現有車両



化学消防ポンプ自動車

- 車名：日野
- 乗車定員：5名
- 排気量：7960cc
- 級別等：Ⅱ型/A2
- 登録年月日：平成16年3月26日

水槽付消防ポンプ自動車

- 車名：日野
- 乗車定員：6名
- 排気量：6400cc
- 級別等：Ⅰ-B/A2
- 登録年月日：平成27年3月25日





指揮統制車

- 車名：日産
- 乗車定員：8名
- 排気量：4470cc
- 級別等：-
- 登録年月日：平成18年12月22日



救助工作車

- 車名：日野
- 乗車定員：6名
- 排気量：7960cc
- 級別等：II型
- 登録年月日：平成13年3月12日



はしご付消防自動車

- 車名：日産
- 乗車定員：6名
- 排気量：21200cc
- 級別等：30m級
- 登録年月日：平成16年12月15日



屈折はしご付消防ポンプ自動車

- 車名：日野
- 乗車定員：5名
- 排気量：7680cc
- 級別等：20m級
- 登録年月日：平成21年2月27日



小型動力ポンプ付水槽車

- 車名：日野
- 乗車定員：3名
- 排気量：8220cc
- 級別等：I型/B2
- 登録年月日：平成15年3月26日



消防ポンプ自動車

- 車名：いすゞ
- 乗車定員：5名
- 排気量：4770cc
- 級別等：CD-1/A2
- 登録年月日：平成18年11月6日



高規格救急自動車

- 車名：日産
- 乗車定員：7名
- 排気量：2480cc
- 級別等：高規格
- 登録年月日：令和3年9月17日



後方支援車

- 車名：いすゞ
- 乗車定員：9名
- 排気量：7790cc
- 級別等：I型仕様
- 登録年月日：平成18年3月17日



資機材搬送車

- 車名：マツダ
- 乗車定員：3名
- 排気量：1990cc
- 級別等：-
- 登録年月日：平成15年10月29日



広報車

- 車名：トヨタ ■乗車定員：9名
- 排気量：1990cc ■級別等： -
- 登録年月日：平成26年1月23日



司令車

- 車名：トヨタ ■乗車定員：7名
- 排気量：2360cc ■級別等： -
- 登録年月日：平成24年2月20日



査察車

- 車名：トヨタ ■乗車定員：7名
- 排気量：2690cc ■級別等： -
- 登録年月日：平成19年2月28日

予防業務

～火災0（ゼロ）を目指して～

予防業務は、火災の発生を未然に防ぎ、また発生した際の被害を最小限に留めるために重要な業務です。防火対象物や危険物施設の安全性を建設前の計画段階からチェックし、立入検査や各種届出の確認により継続して安全性の確保に努めています。

また、市民や企業、関係団体と協力して火災予防の推進を図り、安心安全なまちづくりを目指しています。

○指導業務

建築物の消防用設備等の設置に関する指導や建築確認に係る同意事務、また、危険物施設の許認可申請、その他の各種届出に対する書類審査及び指導を行います。

○査察業務

防火対象物や危険物施設への立入検査を実施し、消防関係法令への適合状況や火災予防上の安全性をチェックし行政指導を行います。

また、重大な違反のある対象物に対する違反処理を遂行します。



○火災調査

火災の原因調査により出火原因を特定し、類似火災の防止に努めるとともに、統計資料をまとめることで、火災の傾向を把握して火災予防広報に繋げています。



○予防広報

火災の予防のために様々な広報活動を行っています。

特に、秋・春全国火災予防運動期間に合わせ、関係団体の協力のもと広報活動を展開しています。



○四街道市防火指導員

地域の防災リーダーとして、防火思想の普及と火災予防措置の徹底を図るために設置された団体で、対象地区から選出された女性により構成されています。

研修会、視察研修、普通救命講習会等を開催し、これを通じて必要な知識を身に付け、各地域の防火思想の普及に繋げています。

○四街道市危険物安全協会

危険物及び指定可燃物の取扱い及び管理の向上並びに危険物等に起因する災害の防止に努め、もって公共の福祉の増進に寄与することを目的とする団体で、危険物施設等の事業者及び賛助会員等で構成されています。



四街道市防火指導員



四街道市危険物安全協会

救急業務

命をつなぐ。未来をつなぐ。

○救急現場活動

救急救命士を含む救急隊員は、救急車に乗車して現場に向かい、傷病者の観察・処置を実施しながら医療機関まで搬送する「プレホスピタルケア（病院前救護）」を担っており、心肺停止を含む重症傷病者に対して、適切な処置を救急現場で実施し、迅速に医療機関へ搬送することが救命率の向上につながります。



○救急隊員の訓練・研修

指導救命士を中心とした教育体制のもと、救急救命士を含む救急隊員及び消防隊員に対する教育を「救急隊員教育計画」に基づき実施し、救急隊員個々の技術向上及び若手職員の育成に取り組んでいます。



○医療機関との連携

印旛地域救急業務メディカルコントロール協議会では、印旛地域の6消防本部が連携をして救急医療体制の充実・強化を図っています。

ドクターヘリとは、救急専用の医療機器等を装備したヘリコプターに救急医療の専門医及び看護師等が同乗し、消防機関等の要請により救急現場に向かい、救急現場等から医療機関に搬送する間、患者に救命医療を行うことのできるヘリコプターです。

ラピッドカーとは、緊急自動車として登録されたドクターカーに、ドクターヘリが出動できない時間帯（日没～夜間）に消防からの出動要請を受けた場合、救命救急センターの医師や看護師が同乗し、救急現場に直接向かうための専用車両です。



○救命講習会

- ・市民が応急手当に関する正しい知識と技術を習得するため救命講習会を開催し、「心配蘇生法」、「AED」の体験を通じて応急手当の大切さを普及啓発しています。



特別救助隊

あなたを守るために訓練を
最高の団結力で、命を救う。

近年の救助事象は、都市構造等の変化に伴い複雑多様化しており、より高度な知識や技術が求められます。こうした災害現場で最善の救助活動を行うために、様々な現場を想定した各種訓練を実施し、隊員の知識技術を養うと共に連携強化を図り、いかなる災害にも対応出来るよう日々精進しています。

○救助活動

要救助者を、安全、確実、迅速に救出するために、全力で災害現場活動に取り組んでいます。



○災害対応訓練

様々な状況下から要救助者を救出するため、日々、訓練に励んでいます。他機関との連携訓練にも積極的に取り組んでいます。

都市型ロープレスキュー訓練



都市型救助体系のロープレスキュー訓練を実施し、救助活動の幅を広げています。また、消防学校救助科講師の派遣も行っています。

CBRNE災害対応訓練



テロ災害等の特殊災害対応訓練を行い、関係機関との連携訓練も実施しています。

ブリーチング訓練



震災等の大規模災害で、倒壊建物に取り残された要救助者救出のために必要な、鉄筋コンクリートを破壊する訓練を実施しています。

航空隊連携訓練



近隣の千葉県消防局航空隊との連携訓練を実施しています。

火災対応訓練



火災時の屋内進入訓練の一環として、解体予定建物を借用した、ドアの切断開放訓練を実施しています。

交通救助訓練



廃車車両を使用して、様々な状況の事故車両から要救助者を救出する、交通救助訓練を実施しています。

○消防救助技術大会

消防救助技術大会は、日頃の訓練成果を披露する場所です。

全国大会を目指して日々訓練に励み、平成29年度には、ロープ応用登はん訓練、はしご登はん訓練の2種目において、全国大会に進出し入賞を果たしました。

引揚救助訓練



ロープ応用登はん訓練



はしご登はん訓練



ちば消防共同指令センター

千葉県北東部・南部20消防本部の 指令管制業務を運用する共同指令センター



千葉県北東部・南部の20消防本部が、消防体制の充実強化、119番通報の受信能力の向上、行財政上の効果を目指し、平成25年4月より、ちば消防共同指令センターを共同運用しています。四街道市からは、ちば消防共同指令センターへ2名の消防職員を派遣し、119番通報の受付業務を実施しています。

ちば消防共同指令センター

所在地：千葉市中央区長洲1-2-1

千葉市消防局7階

派遣人員：86名(20消防本部(局))

構成消防本部：千葉市消防局、銚子市消防本部、木更津市消防本部、成田市消防本部、旭市消防本部、市原市消防局、君津市消防本部、富津市消防本部、**四街道市消防本部**、袖ヶ浦市消防本部、富里市消防本部、栄町消防本部、安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部、長生郡市広域市町村圏組合消防本部、匝瑳市横芝光町消防組合消防本部、山武郡市広域行政組合消防本部、香取広域市町村圏事務組合消防本部、佐倉市八街市酒々井町消防組合消防本部、印西地区消防組合消防本部、夷隅郡市広域市町村圏事務組合消防本部



ちば消防共同指令センター



ちば消防共同指令センターの特長

- ❖ 広域災害・大規模災害への効果的な対応
- ❖ 近隣消防機関との連携強化
- ❖ 人員配備や施設などの効率的な運用
- ❖ 迅速な相互応援出動
- ❖ 複雑多様化した消防需要への対応
- ❖ 消防体制基盤の強化



緊急消防援助隊

緊急消防援助隊は、平成7年兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）の教訓を踏まえて、大規模な特殊災害時等の広域災害時に都道府県を超えて、迅速かつ効果的に人命救助等の応援活動を実施することを目的に平成7年に創設されました。

東北地方太平洋沖地震 四街道隊活動記録

- ・ 災害発生日時 平成23年3月11日（金）14時46分頃
- ・ 活動日時 平成23年3月21日（月）9時00分～16時10分
- ・ 派遣先 岩手県陸前高田市（野営場所：滝の里工業団地内）
- ・ 緊急消防援助隊千葉県隊第三次派遣隊 32隊114名
- ・ 四街道市2隊（消火隊、後方支援隊）8名



（市長への出動報告）



（派遣隊員）



（千葉県隊結隊式）



（野営場所）



(被災地 陸前高田市)



(被災地 陸前高田市)



(被災地 陸前高田市)



(被災地 陸前高田市)



(被災地 陸前高田市)



(市長への帰隊報告)



消防団



階級別消防団員数

(令和3年4月1日現在)

階級 区分	合計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	定数
実員	228 (12)	1	2	18	16	17 (1)	84 (5)	90 (6)	300

※()内は女性消防団員を表す。

消防団管轄区域

(令和3年4月1日現在)

分団名	管轄区域	実員	階級別						
			団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
団本部	四街道市全域	17	1	2	2		1	5	6
第1分団	下志津新田、さつきヶ丘	7			1	1	1	4	
第2分団	四街道の一部、四街道1丁目の一部 四街道2丁目の一部、四街道3丁目	15			1	1	1	5	7
第3分団	鹿渡、和良比の一部、みのり町 さちが丘1丁目、中央	15			1	1	1	5	7
第4分団	四街道の一部、四街道1丁目の一部	14			1	1	1	5	6
第5分団	和良比の一部、めいわ3丁目、4丁目 美しが丘1丁目～3丁目、四街道2丁目の一部	17			1	1	1	5	9
第6分団	小名木、めいわ1丁目、2丁目、5丁目	12			1	1	1	5	4
第7分団	吉岡、鷹の台1丁目～4丁目	13			1	1	1	5	5
第8分団	南波佐間、和田、上野	10			1	1	1	5	2
第9分団	成山、中台、中野	8			1	1	1	5	
第10分団	山梨、旭ヶ丘1丁目～5丁目 みそら1丁目～4丁目	18			1	1	1	5	10
第12分団	栗山、つくし座1丁目～3丁目 さちが丘2丁目、長岡	18			1	1	1	5	10
第14分団	物井、千代田1丁目、2丁目、4丁目、5丁目 もねの里1丁目～6丁目	14			1	1	1	5	6
第15分団	亀崎、千代田3丁目	9			1	1	1	5	1
第16分団	内黒田、萱橋、池花1丁目、2丁目	12			1	1	1	5	4
第17分団	大日の一部、鹿放ヶ丘	15			1	1	1	5	7
第18分団	大日の一部	14			1	1	1	5	6
合 計		228	1	2	18	16	17	84	90

※ 第13分団は、平成30年3月31日を以て廃止

※ 第11分団は、令和3年3月31日を以て廃止

自分たちのまちは自分たちで守る

消防団は、単に消火活動のみならず、地震や風水害などに多数の動員を必要とする大規模災害時の救助、避難誘導、警戒活動など非常に重要な役割を果たします。

また、平常においても、いざという時に備える各種訓練や巡回広報、特別警戒、応急手当指導等の活動を通して、地域の安全・安心の確保に尽力しています。



(整列する消防団員)



(女性消防団員)



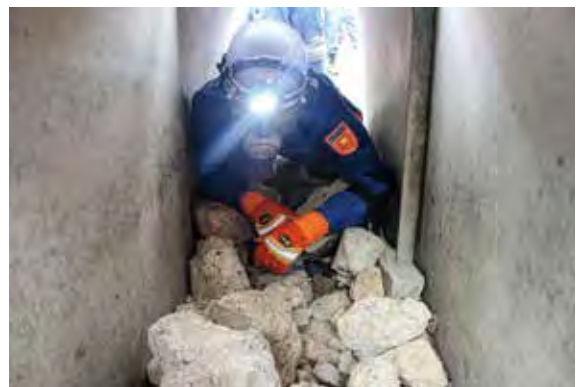
(女性消防団員による小型ポンプ操法)



(ポンプ操法大会)



(救助訓練1)



(救助訓練2)

あ と が き

本誌の編集にあたりましては、多くの皆様方に貴重な資料の提供や助言をいただき誠にありがとうございました。

また、次の50年へ向けて、新たな飛躍を図る契機として、職員一致団結し「未来へ繋ぐ、安全・安心の街 四街道」に向かって努力してまいります。

四街道市消防本部 50周年記念誌

発行日 令和3年12月1日
発 行 四街道市消防本部
千葉県四街道市鹿渡934-26
☎043(422)0119
印 刷 (株)白樺写真工芸
☎043(423)1101

【写真提供】千葉市消防局
日本医科大学千葉北総病院
朝日航洋(株)
【表紙絵】四街道市特別救助隊長 熊田 諭

四街道市消防本部